

日本の伝統音楽のよさや美しさを見いだし 味わうことができる生徒の育成

—— 鑑賞の授業における、
知覚したことと感受したことを結び付ける活動の工夫を通して ——

長期研修員 小池 寿久

《研究の概要》

本研究は、中学校音楽科の鑑賞の学習において、日本の伝統音楽のよさや美しさを見いだし、味わうことができる生徒の育成を目指したものである。「知覚したことと感受したことの共有」「体験的な活動」「再鑑賞」を手立てとした「知覚したことと感受したことを結び付ける活動」を取り入れた授業を行うことで、知覚したことと感受したことの関わりについて考えを深めることができ、伝統音楽のよさや美しさを味わうことに有効であることを、授業実践を通して明らかにした。

キーワード 【音楽—中 鑑賞 日本の伝統音楽 知覚 感受】

群馬県総合教育センター

分類記号：G05-04 平成29年度 263集

I 主題設定の理由

「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」において、現行学習指導要領（平成20年3月公示）における音楽科の課題として「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと」などが挙げられ、更なる充実が求められている。

教育内容の具体的な改善事項として「グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、音楽に関する伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくこと」が重要であるとされている。また、「我が国のよき音楽文化を伝える教材を扱ったり、実際にものに触れて感じ取ることや体を使って体験する活動（中略）など、学校教育において取り上げなければ出会うことのない教材や経験することのない活動を、子供たちに提供することも、学校教育の役割の一つである」とされている。

平成29年度の群馬県学校教育の指針（解説）において、「音楽を形づくっている要素や楽譜を手がかりとして、曲の特徴を捉えさせること」が音楽科の指導の重点として提示された。解説では「子供たちが音や音楽に出会った時、様々な思いや考えをもちます。子供たちが感じ取ったことを生かして、音楽を形づくっている要素を手掛かりに音楽的な特徴を捉えさせましょう」と説明されており、「その際、子供たちの知覚した（聴き取った）ことと感受した（感じ取った）ことを結び付け、他者と共感・共有しながら学びの質を高めていくことが大切」とされている。

所属校において行ったアンケートによると「音楽の授業が好きか」という質問に対して肯定的な回答が85%、「CDなどで音楽を聴く学習は好きか」という質問に対して肯定的な回答は94%と高かった。一方、「日本の音楽の学習に興味があるか」という質問に対して肯定的な回答が44%にとどまった。このことから、所属校における伝統的な音楽に対する興味・関心は低く、よさをや美しさを味わうまでには至っていないと考えられる。

以上のことから、中学校音楽科の鑑賞の学習指導において、知覚したことと感受したことを結び付ける活動を取り入れることで、音楽的な特徴を捉えさせ、日本の伝統音楽のよさや美しさを自分なりに見だし、実感を持って味わうことができる生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校音楽科の鑑賞の学習指導において、日本の伝統音楽のよさや美しさを見だし、味わうことができる生徒を育成するために、知覚したことと感受したことを結び付ける活動を取り入れることが有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

1 知覚したことと感受したことを共有する

生徒一人一人が知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定することによって、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気づき、主体的に鑑賞に取り組むことができるであろう。

2 知覚したことと感受したことを結び付けて考える

体験的な活動を取り入れながら繰り返し鑑賞を行い、知覚した要素と感受した特質や雰囲気との関わりについて考える場面を設定することによって、多様な知覚や感受を引き出し、日本の伝統音楽である歌舞伎音楽のよさや美しさを見いだすことができるであろう。

3 音楽のよさや美しさを味わって聴く

知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動などによって見いだしたよさや美しさを基に、日本の伝統音楽のよさや美しさについて自分なりに考えながら再鑑賞を行う場面を設定することによって、生徒一人一人が見いだした日本の伝統音楽のよさや美しさを、実感を持って味わうことができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「日本の伝統音楽のよさや美しさ」とは

日本の伝統音楽のよさや美しさとは、生徒が音楽に対する感性を働かせ、日本の伝統音楽で用いられる音や音楽を鑑賞する中で見いだす、よさや美しさのことである。

例えば、民謡の歌声や邦楽器の独特な音色、囃子などの楽器構成、序破急や間といった音楽の構成法、日本語が作り出すリズムや拍子感、能や歌舞伎、文楽など他の芸術と関わって形づくられる芸能などが作り出す雰囲気などを日本の伝統音楽のよさや美しさと考える。

(2) 「音楽のよさや美しさを見いだし、味わう」とは

音楽のよさや美しさを見いだすとは、生徒が様々な鑑賞の活動を通して身に付けた知識や経験によって、自分なりに音楽のよさや美しさについて考えを持つことである。生徒は鑑賞した音楽のよさは何か、どのようところが美しいのかについて音楽的な根拠を基に自分なりに考えることで、よさや美しさを見いだせるようになる。

音楽のよさや美しさを味わうとは、新中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年3月）では「例えば、快い、きれいだといった初発の感想のような表層的な捉えに留まることなく、鑑賞の活動を通して習得した知識を踏まえて聴き返し、その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為のこと」であり、「主体的な行為として音楽を聴いている状態が、本事項における『味わって聴く』ということができる状態」であるとされている。

生徒自身が見いだしたよさや美しさの考えを持って鑑賞に取り組み、鑑賞した音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認し、見いだしたよさや美しさを実感を持って聴くことで、音楽のよさや美しさを味わうことができると考える。

(3) 「知覚したことと感受したことを結び付ける」とは

新中学校学習指導要領解説音楽編では「『知覚』は、聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別し意識することであり、『感受』は音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れることである」とし、「本来、知覚と感受は一体的な関係にあると言えるが、知覚したことと感受したことをそれぞれ意識しながら、両者の関わりについて考える事が大切である」と解説されている。

このように一体的な関係にある知覚したことと感受したことを、要素や要素同士の関わり合い、雰囲気や特質などの観点で整理し、改めて関連付けて考えることにより、「もの悲しい雰囲気を作り出しているのは、短調のメロディと独奏で奏でられる三味線の音色である」「演奏している三味線の数が増えることで音が華やかになり、延年の舞の場面の様子をより一層引き立てている」などと考えられるようになる。

2 手立ての説明

(1) 知覚したことと感受したことの共有

本研究では、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気付き、主体的に鑑賞に取り組むことができるように、知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定する。共有し合うことによって、生徒自らが知覚したことと感受したことを結び付け、

音楽的な根拠をもって批評できるようになり、音楽のよさや美しさを見いだすことができる。

① 初発の感想の共有

生徒一人一人が初発の感想をワークシートに書き出し、グループで話し合っ
てラミネートカードにまとめ、クラス全体
で共有を行う（図1）。一人一人がど
のような要素を知覚し、どのような雰
囲気を感じたのか伝え合うことによ
り、音楽を形づくっている要素を手
掛かりに、よさや美しさを見いだす
ための見通しを持つことができる。

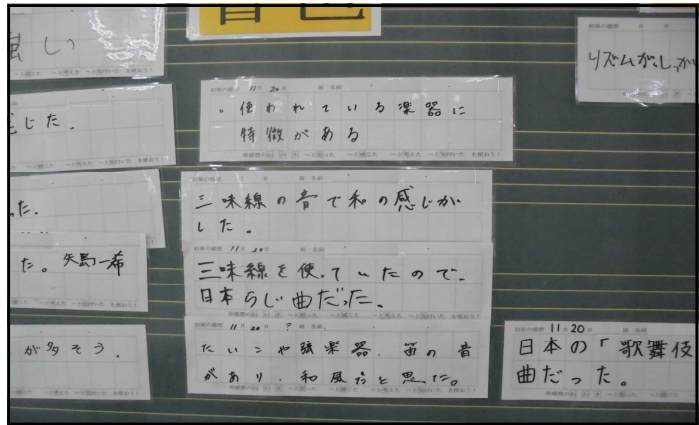


図1 初発の感想のラミネートカード

② 見いだしたよさや美しさの共有

個人で知覚したことと感受したことをグループ内で共有し、同じ考えに共感したり新しい考えに気付いたりすることで、生徒が自分自身でよさや美しさを見いだすことにつながる。

その後、クラス全体で、これまでの鑑賞で得た知識や経験を基に、グループで話し合いながら見
いだした音楽のよさや美しさについて、ラミネートカードにまとめて共有する。自分の見いだした
よさや美しさとクラスの他のグループが見いだしたよさや美しさを比較することで、同じ考えがあ
ることに共感したり、異なる意見を取り入れて音楽の捉え方を広げたりすることができる。

(2) 体験的な活動

本研究では、何度も繰り返し鑑賞を行い、生徒から多様な知覚や感受を引き出し、よさや美しさ
を生徒自身が見いだすために以下の①～⑥のように取り入れる、体の動きなどを伴って鑑賞する活
動を体験的な活動とした。ただ鑑賞しただけでは知覚したり感受したりできなかった音楽の特徴も、
体験的な活動を取り入れながら鑑賞することによって、生徒自身が音楽の要素や雰囲気などに気付
き、実感を持って聴き取ったり感じ取ったりできるようになる。

新中学校学習指導要領（平成29年3月公示）の音楽の指導計画の作成と内容の取扱いには「知覚
したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表し
たり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、適宜、体を動かす活動も取り入れるよ
うにすること」と示されている。これらの活動は音楽の特徴を捉えるための有効な手段となり得る
と考える。体験的な活動を伴いながら曲の一部を何度も繰り返し鑑賞することで、生徒の様々な気
付きや考えを引き出すことにつながる。

① 歌詞を音読する

日本語の歌詞を音読することで、言葉が持つ抑揚と旋律との関わりや、七五調特有のリズム、弱
起や強起など、音楽的な特徴についても考えることができる。江戸時代の言葉遣いや歌に織り込ま
れた物語の内容など、音楽の背景となる情報にも生徒が気付き、見いだせるようになると考える。

② 歌詞を見ながら聴く

読み仮名を付けた台本や平仮名で書かれた歌詞を見ながら鑑賞することで、歌詞を聴き取りなが
ら鑑賞することができる。中学生にとって、江戸時代の日本語が用いられている歌舞伎や文楽は、
音だけで鑑賞していると歌詞を聴き取ることが容易ではない。読み仮名を付けた台本等を見なが
ら聴くことで、どんな言葉を歌っているのか分かりやすくなる。歌詞を見ながら聴くことで、物語の
大筋を理解しやすくなり、音楽の作り出している場面の雰囲気や心情を捉えやすくなると考える。

③ 拍子を取りながら聴く

拍子を取りながら鑑賞することで、鑑賞曲の持つ速度や速度の変化、拍子や拍感の有無について
知覚することができる。本実践では手で拍子を取りながら聴いていくが、他にも行進しながら聴く、
指揮をしながら聴く等も速度を知覚する方法として活用できると考える。

④ 旋律線をなぞる

今回の実践では音の高さを縦軸に、音の長さを横軸にとり、旋律の動きをグラフ状に線で表した

ものを旋律線とした(図2)。長唄の演奏を聴きながら旋律線をなぞることで、音程が坂状になめらかに変化していることや、唄い尻の音程が下げられていることなどを知覚することができると思う。

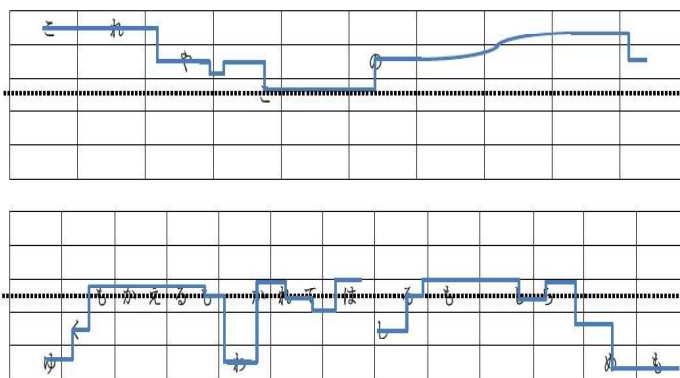


図2 長唄「これやこの」の旋律線の例

⑤ まねる

聴き取った音の高さに合わせて歌詞を口ずさむことを、まねるとした。長唄の一節をまねてみることで、響きのある声で歌っていることや一つ一つの発音を長く伸ばして歌っていること、長いフレーズを深く息を吸って一息で歌いきっていること等に気付くことができると思う。

⑥ その他

この他にも、五線譜に記された楽譜を見ながら鑑賞する、口唱歌を使うなど、音楽の種類や着目させたい音楽を形づくっている要素に応じて、様々な体験的な活動を設定することができる。

(3) 再鑑賞

本研究では、知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動によって見いだした音楽のよさや美しさを、自分なりに考えながらじっくりと聴き味わうために行う鑑賞を再鑑賞とした。

再鑑賞の際には生徒自身が見いだしたよさや美しさを味わえるように、個人の鑑賞としてじっくりと音楽に向き合い、音楽を聴き味わえるようにしていく。

3 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対 象	所属校 第2学年 113名（男子52名・女子61名）
期 間	平成29年11月20日～11月30日（全3時間）
題材名	歌舞伎音楽のよさや美しさを味わおう
題材の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の伝統音楽である歌舞伎音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。 ・歌舞伎音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、音楽を形づくっている要素や曲想との関わりについて考え、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	生徒一人一人が知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定したことは、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気づき、主体的に鑑賞に取り組むことに有効であったか。	(1) 授業中の観察とワークシートの記述の内容 (2) 授業後のアンケートの分析
見通し2	体験的な活動を取り入れながら繰り返し鑑賞を行い、知覚した要素と感受した特質や雰囲気との関わりについて考える場面を設定したことは、多様な知覚や感受を引き出し、日本の伝統音楽である歌舞伎音楽のよさや美しさを見いだすために有効であったか。	(1) 授業中の観察とワークシートの記述の内容 (2) 授業後のアンケートの分析
見通し3	知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動などによって見いだしたよさや美しさを基に、日本の伝統音楽のよさや美しさについて自分なりに考えながら再鑑賞を行う場面を設定したことは、生徒一人一人が見いだした日本の伝統音楽のよさや美しさを、実感を持って味わうために有効であったか。	(1) ワークシートに記述された批評文の内容 (2) 授業後のアンケートの分析

3 抽出生徒

A	知覚できる要素の数は少ないが、音楽から感じた印象や雰囲気を感想に記述することができ、意欲的に音楽の授業に取り組むことができる。体験的な活動に取り組むことで知覚することを増やし、知覚したことと感受したことを共有することによって、知覚と感受を結び付けながら鑑賞できるようになることを目指したい。
B	鑑賞の能力は高く、鑑賞の授業に取り組むことは好きだが、日本の伝統音楽に関する興味はあまりない。知覚したことと感受したことを共有することで、歌舞伎の音楽よさや美しさを見だし、再鑑賞を通してよさや美しさを味わい、日本の伝統音楽に対する興味・関心を高め、主体的に鑑賞活動に取り組めるようにしたい。

4 評価規準

ア 音楽への関心 ・意欲・態度	① 我が国の伝統音楽である歌舞伎音楽の特徴とその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。
--------------------	--

エ 鑑賞の能力	<p>① 歌舞伎音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や曲想との関わりについて理解して聴いている。</p> <p>② 歌舞伎音楽の特徴と物語との関わりを理解しながら、音楽の価値を考え根拠をもって批評するなどして、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>
---------	---

5 指導計画

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動 (◇評価項目)
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時	つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統音楽に関する知識。 音楽の要素に関する知識。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の要素を知覚し雰囲気や特質を感じる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動を取り入れて長唄「これやこの」を鑑賞し、歌舞伎音楽に興味を持つ。 <p>◇アー①</p>
第2時	追求する	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎「勸進帳」に関する知識。 総合芸術に関する知識。 	<ul style="list-style-type: none"> 知覚したことと感受したことを結び付けて考える力。 音楽のよさや美しさについて考える力。 	<ul style="list-style-type: none"> 「勸進帳読み上げ」と「番卒の知らせ～義経詮議」の場面を鑑賞し、長唄の二つの役割について考える。 <p>◇エー①</p>
第3時	まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎「勸進帳」に関する知識。 	<ul style="list-style-type: none"> 要素や特質を関連付け、よさや美しさを見だし、味わう力。 	<ul style="list-style-type: none"> 「判官御手を取り給い」と「延年の舞」の場面を鑑賞し、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わう。 <p>◇エー②</p>

VI 研究の結果と考察

日本の伝統音楽のよさや美しさを見だし、味わうことができる生徒を育成するために、知覚したことと感受したことを結び付ける活動が有効であったかについて、三つの視点から考察する。

- 1 生徒一人一人が知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定したことは、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気づき、主体的に鑑賞に取り組むことに有効であったか。

(1) 授業中の観察とワークシートの記述の分析

第1時では、初発の感想の共有を行った。音声だけで歌舞伎勸進帳の長唄「これやこの」の鑑賞を行い、個人で聴き取ったり感じ取ったりしたことをワークシートにメモを取り、グループで共有した。

次に、各グループでクラス全体に伝えたい初発の感想をラミネートカードにまとめ、黒板に掲示した。初発の感想には音色や速度について知覚したことや、音色や速度から感受したことを書く生徒が多かった。長唄が腹から出す堂々とした声音で歌われていることや、ゆったりとした速度で歌う声が醸し出す雰囲気などを感じ取り、「力強い」「迫力がある」などの感想がグループでまとめ

られた。音色の特徴として楽器の音があること、三味線の音がしていることなどを聴き取り、初発の感想を「日本らしい曲」とまとめたグループもあった。

抽出生徒Aはワークシートの初発の感想に「とても力強い感じがする。迫力がある。とても響きがある」と記述した。この感想を基に抽出生徒Aは知覚したことと感受したことをグループ内で伝え合い、共有した。その中から共通点を見付け、グループからクラスに提示する初発の感想を「力強いと感じた」とまとめた(図3)。

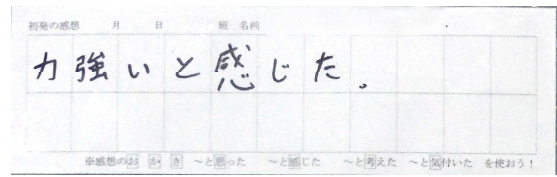


図3 初発の感想を書いたラミネートカード

抽出生徒Aが代表してホワイトボードマーカーでラミネートカードに書き、黒板に掲示しクラス全体で共有した。

抽出生徒Bは、初発の感想として「テンポがない」「歌舞伎みたい」とワークシートに記述した(図4)。グループの感想としては「テンポがない」「歌舞伎っぽい」と二枚のラミネートカードが掲示された。

全てのグループの初発の感想が掲示されると、生徒一人一人がラミネートカードに書かれた意見を読み合い、自分たちと同じ感想が書かれたラミネートカードや、自分たちの感じ取ったものと異なる感想が書かれたラミネートカードを、興味を持って見る様子が見られた。

第2時では、歌舞伎勸進帳から「勸進帳読み上げ」「番卒の知らせ～義経詮議」の場面の長唄を鑑賞して、知覚したことと感受したことをグループで共有した。個人で知覚したり感受したりしたことを、聴き取ったことと感じ取ったことに分けてワークシートにメモし、聴き取った要素と感じ取った雰囲気の間わりについてグループで話し合った。

抽出生徒Aはワークシートに「勸進帳読み上げ」の長唄を聴いて知覚したこととして「強弱がある」「テンポが遅くなったり速くなったりしている」と記述した。また、感受したこととして「あまり力強くない感じ」と記述した。グループの他の生徒は「強そう」と感受したため、同じ場面でも感じ取り方が違うことをグループで話し合っていた。授業後の感想には、「番卒の知らせ」の印象から「僕は普段歌舞伎などは聴いたことはなくて、実際に聴いてみて、長唄は迫力があってすごいと思った」と記述されていた。

抽出生徒Bは授業の振り返りの感想に「今日歌舞伎を見て、登場人物の心情に合わせた曲にしたりしてとても聴いていて面白いと思いました」と記述していた(図5)。

第3時では、前時までに学習してきた内容を振り返りながら、歌舞伎勸進帳の「判官御手を取り給い」の場面と「延年の舞」の場面を鑑賞した。個人で思考する時間をとり、自分なりに考えたよさや美

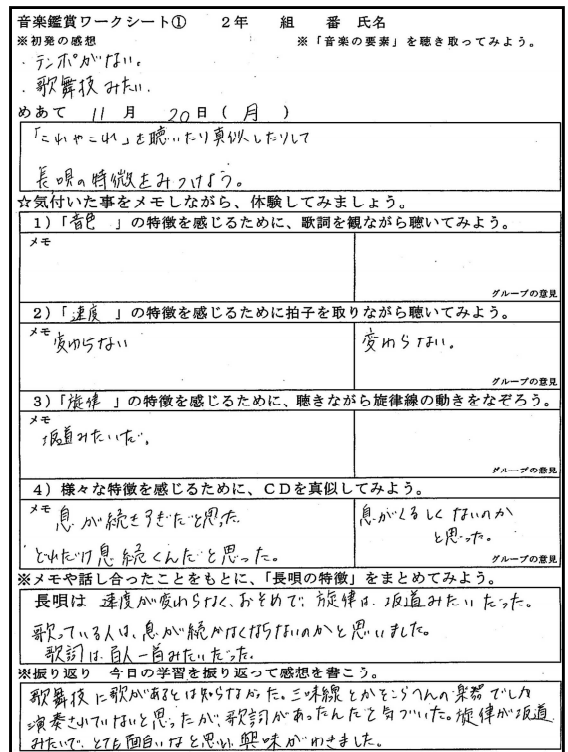


図4 第1時の抽出生徒Bのワークシート

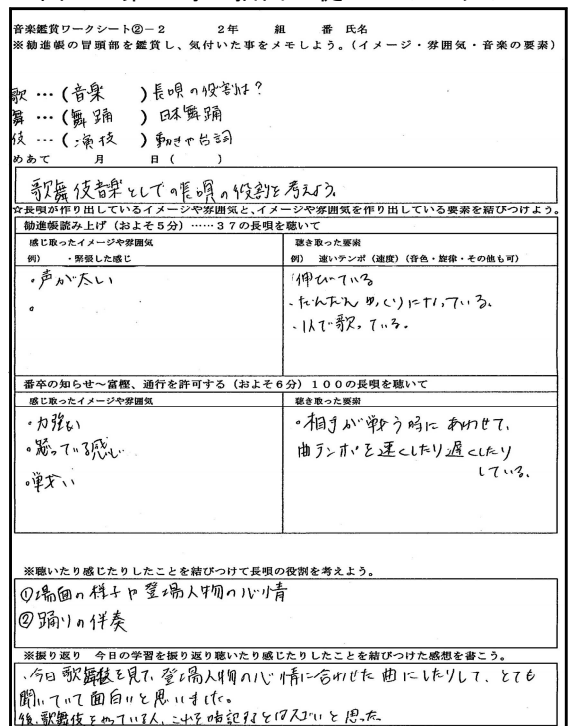


図5 第2時の抽出生徒Bのワークシート

しさをワークシートにまとめた。それぞれがまとめたよさや美しさをグループで共有し、ラミネートカードにまとめて黒板に掲示した。

抽出生徒Aは自分でまとめた歌舞伎音楽のよさや美しさとして「速さが変わったりとても迫力のある歌で良いと思った。また、伸ばす所が多かったので美しく感じた。リズムがきれいに合わさっているところが良いと思った。一つ一つにしっかり動きがあるところが良い」と記述した。

抽出生徒Aのグループでは「力強かった」「速さが変わったり強弱の差はあまりない」という意見も出された。グループで話し合った結果、「とても力強く、テンポやいろいろなリズムに合わせていたのが良かった」というよさをラミネートカードにまとめた(図6)。

音楽のよさや美しさ		月	日	氏名				
と	て	も	力	強	く	、	テ	ン
ポ	ヤ	色	々	な	リ	ズ	ム	に
合	わ	せ	て	い	た	の	が	良
か	っ	た	.					

図6 抽出生徒Aのグループのラミネートカード

抽出生徒Bは、自分でまとめた歌舞伎音楽のよさや美しさとして「音に合わせて演技すること。場面に合わせて、速くなったり遅くなったりして、それに合わせて三味線などが入っていた」と記述した。グループの友達の「ゆっくり長く歌っていたり、速く歌っていたりして、その場面の様子や登場人物の心情などが出ている」「いろいろな楽器で表現していた」「足の音も使って迫力を出していた」「場面の様子によって、演奏が工夫されている。登場人物の心情が演奏されている楽器や速度によって表されている」という意見を共有し、クラス全体で共有するよさや美しさとして「唄っている速度と演奏している楽器により場面の様子や登場人物の心情が表されている」というよさをラミネートカードにまとめた(図7)。

音楽のよさや美しさ		月	日	氏名					
唄	っ	て	い	る	速	度	と	演	奏
し	て	い	る	楽	器	に	よ	り	
場	面	の	様	子	や	登	場	人	
物	の	心	情	が	表	さ	れ	て	
い	る	.							

図7 抽出生徒Bのグループのラミネートカード

それぞれのグループのラミネートカードを黒板に貼り出して、よさや美しさについてクラス全体で共有した。

(2) 授業後のアンケートの分析

「初発の感想をラミネートカードに書いて伝え合ったことで音楽の特徴に気付くことができましたか」という設問に対して、「気付くことができた」と答えた生徒は55%、「どちらかといえば気付くことができた」と答えた生徒は41%で、肯定的な回答をしている生徒は96%であった。

また、「1時間目の授業で初発の感想を書いて、前に貼り出したこと」に関する自由記述の内容を分析したところ、「他の生徒と意見を比較できることのよさ」を挙げた生徒が全体の73%、「自分が気付かなかったことに気付けることのよさ」を挙げた生徒が全体の30%であった。

「2時間目の授業で、勸進帳の長唄を聴いて、聴き取ったり感じ取ったりしたことをグループで話し合ったこと」に関する自由記述の内容を分析したところ、「交流することが良かった」と感じている生徒は全体の54%、「話し合うことで他の生徒から出された意見が参考になった」と感じている生徒は全体の47%、「話し合うことが長唄に対する理解を深めることに有効であった」と感じている生徒は全体の32%であった。

(3) 考察

アンケートの結果から、ラミネートカードを用いたクラス全体への共有は、音楽の特徴に気付くことに対して有用であると捉えられていることが分かった。自由記述の内容や授業中の様子から、生徒たちは知覚したことと感受したことを他の生徒と比較して考えることが良いと捉えていた。自他の意見を比較することにより、自分の意見との共通点を見付けたり、一人では知覚したり感受したりできなかった新しい特徴に気付いたりすることができた。

また、授業の様子から、多くの生徒が共有することによって新しい考えを発見することを楽しみながら、自分と他の生徒が知覚したことと感受したことを積極的に比較して、自他の意見の共通点や差異について考え、「これやこの」の特徴について主体的に考えることができていたと考えられる。

抽出生徒Aは自分なりに聴き取り考えたことをグループ活動の中で友達と共有することで、気づきが少なかった友達に自分の意見を伝えて受け入れられたり、多くの気づきがあることを友達に賞賛されたりすることで、更に意欲的に鑑賞に取り組めるようになり、記述する内容も増えていった。

抽出生徒Bは、第2時の感想として心情に合わせた音楽が演奏されていること、歌舞伎音楽を面白いと感じたことなどを記述していた。第3時の自分が感じたよさや美しさとして、主に速度を知覚したことからよさを記述しているが、グループでの話し合いによって、速度と音色が登場人物の心情を表していることにまで考えを深めることができていた。グループの中で意見を交流させることで、歌舞伎音楽に対する興味・関心を持ち、主体的に鑑賞する姿が表れていると考えられる。

これらのことから、生徒一人一人が知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定したことは、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気づき、主体的に鑑賞に取り組むことに有効であったと考えられる。

2 体験的な活動を取り入れながら繰り返し鑑賞を行い、知覚した要素と感受した特質や雰囲気との関わりについて考える場面を設定したことは、多様な知覚や感受を引き出し、日本の伝統音楽である歌舞伎音楽のよさや美しさを見いだすために有効であったか。

(1) 授業中の観察とワークシートの記述の分析

平仮名で書かれた「これやこの」の歌詞を黒板に掲示すると、小さく声に出して読み上げる生徒が数名出てきた。すぐに百人一首だと気づく生徒や、百人一首とは言葉が異なることに気付いて疑問を口にする生徒も見られた。全体で2回音読を行ってから気付いたことを問い掛けると、百人一首の一句であることや下の句が蝉丸の句と異なっていることについて発言した生徒がいたため、クラス全体が歴史との関わりについて興味を持つことができた。掲示された歌詞を読みながら音楽を聴くことで、確かに歌詞は日本語で、歌詞どおりに歌われていることや、音を長く伸ばして歌っていることなどに気づくことができた。

速度の特徴について考えるための方法を問い掛けると、生徒の中からメトロノームを使ったり手を叩いたりすることが提案された。拍を取りながら鑑賞すると、1回目は拍が合わなかったり裏拍を打ち始めたりする生徒も見られたが、三味線の音を意識してグループで一緒に拍をとることを提案すると、徐々に一定のテンポで拍を取れるようになり、一定の速度が保たれている演奏であることを知覚できるようになった(図8)。



図8 拍子をとって速度を知覚する

旋律線をなぞる活動では、1回目は大型ディスプレイに旋律線を拡大し、長唄に合わせて教師が手で旋律線をなぞる様子を見た。2回目は長唄に合わせて手元の旋律線を指でなぞり、それぞれが気付いたことをワークシートにメモした。生徒は音の長さや旋律の上下に着目して聴くことができ、音程がなめらかに変化していることや、唄い尻で急に音程が下がっていることなどに気付いた。

まねをする活動では、全員で立ち上がって一緒に声を出すことで、楽しみながら声を出していた。まねをするまでに「これやこの」を8回から9回繰り返して鑑賞していたため、旋律を大体覚えていた生徒も見られた。演奏に合わせて2回から3回まねをしてから、感じたことをワークシートにまとめ、グループで共有した。まねる活動に取り組んでみると、初めは思うようにまねすることができない様子も見られたが、活動を終えるころには笑顔が見られるようになり、感じ取ったことを

グループで楽しそうに伝え合っている様子も見られた。

体験的な活動を行う度に、ワークシートに個人で気付いたことをメモし、グループで共有した。その際、同じ気付きを見いだしたときや新しい気付きがあったときに、話し合いは活発になった。

抽出生徒Aはワークシートに歌詞を音読する活動のメモとして、「百人一首だと気付いた。最初は何を言っているか分からなかったけど、しっかりと歌詞どおりに歌っていた」と記述した。拍子を取りながら聴く活動では「三味線の音を聴きながら拍子を取ったらテンポが分かった」旋律線をなぞりながら聴く活動では「少しずつ音が上がっている所があったりして難しそうだった」と思った。長唄のまねをする活動では「歌を伸ばすのがとても大変だった。高い所や低い所などいろいろあって大変だった」と記述していた。

抽出生徒Bは第1時の授業後の感想として、体験的な活動の経験を基に「歌舞伎に歌があるとは知らなかった。三味線などの楽器でしか演奏されていないと思っていたが、歌詞があったんだと気付いた。旋律が坂道みたいで、とても面白いなと思い、興味がわきました」と記述していた。

(2) 授業後のアンケートの分析

「歌声をまねしたり拍を取ったりしながら鑑賞することで音楽の特徴が分かりやすくなりましたか」という設問に対して、「分かりやすくなった」と答えた生徒が52%、「どちらかといえば分かりやすくなった」と答えた生徒が44%で、肯定的な回答をしている生徒は96%であった。

「1時間目の授業で、長唄を聴きながら拍をとったり歌をまねしてみたりしたこと」に関する自由記述の内容を分析したところ、「体験をすることで音楽のよさが分かりやすくなる」と考えてた生徒は全体の50%であった。また、「体験をしてみたことで長唄をまねすることの難しさ」を感じ取った生徒は全体の50%生徒であった。

(3) 考察

平仮名で書かれた歌詞を見るだけでも、生徒は興味を持って声に出して読み始めた。声に出して読むことで音になり、そこからまた新しい知覚や感受を引き出すことにつながっていくと考えられる。日本の伝統音楽だからこそ、日本語の歌詞を音読してみることが、物語の背景などを知ることにもつながり、体験として重要な役割がある。

授業後のアンケートに書かれた生徒の感想には、まねをする体験について「歌舞伎の特徴的な声でまねをするのがとても難しくて役の人はずごとと思った」などと書かれていた(図9)。

まねをすることによって生徒が感じるのは、音の長さとしてのリズムとなめらかな音高の上下、フレーズの長さなどである。このような要素が組み合わさっていることを感じ取ったときに、長唄を歌うことが難しい、大変であるという感想にとどまらず、長唄を歌いこなしている演奏家の表現のすばらしさについて気付くことができたと考えられる。

抽出生徒Aは、拍を取りながら音を聴いた体験から、「三味線の音に合わせて拍をとってみたら、テンポが合ってとてもびっくりした」と感想に記述している。抽出生徒Aが表層的に感じ取っていた長唄の速度と、体験的な活動を通して感じ取った速度の違いを比較して考えることができ、長く伸ばす音を含む拍子感のない音楽、あるいは複雑なリズムが用いられた変拍子だと聴き取っていた音楽が、実際は複雑なリズムが用いられているだけで、シンプルな四拍子に合わせて進行していることを感じ取ることができたと考えられる。

- ・歌詞を見て、何を言っているのかが分かるようになった。いざまねしてみると、私たちが普段歌っている歌と全く違ってとても難しく、なかなかまねできなかった。拍もけっこう取りにくかった。歌舞伎役者のすごさが分かった。
- ・聴くことと唄をまねることでは、感じ方に差があると思いました。普段の音楽ではあまりないリズムなので、拍をとるのも難しかったです。
- ・歌声を聴いて拍をとったり三味線の音を聴いて拍子を取ることで、二つの速度が少し違って、三味線が唄に合わせているという長唄の特徴の一つがよく分かりました。
- ・まねをすることで現代の歌との違いや、拍の長さを体験できて良かったです。このような方法は授業を分かりやすくするための良い方法だと思いました。

図9 体験的な活動に関する生徒の感想

また、抽出生徒Bは体験的な活動を通して歌舞伎の中の歌である長唄の存在に気付き、滑らかに音に変化する歌い方を面白いと感じ、興味を高めることができていたと考えられる。

これらのことから、体験的な活動を取り入れながら繰り返し鑑賞を行い、知覚した要素と感受した特質や雰囲気との関わりについて考える場面を設定したことは、多様な知覚や感受を引き出し、日本の伝統音楽である歌舞伎音楽のよさや美しさを見いだすために有効であったと考えられる。

3 知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動などによって見いだしたよさや美しさを基に、日本の伝統音楽のよさや美しさについて自分なりに考えながら再鑑賞を行う場面を設定したことは、生徒一人一人が見いだした日本の伝統音楽のよさや美しさを、実感を持って味わうために有効であったか。

(1) ワークシートに記述された批評文の分析

抽出生徒Bは歌舞伎音楽のよさや美しさを「音に合わせて演技すること。場面に合わせて、速くなったり遅くなったりして、それに合わせて三味線などが入っていた」と短くまとめた。

抽出生徒Bと同じグループの二人は、自分がまとめたよさや美しさについて「場面の様子によって、演奏が工夫されている。登場人物の心情が、演奏されている楽器や速度によって表されている」「ゆっくり長く歌っていたり、速く歌っていたりして、その場面の様子や登場人物の心情などが出ているのが分かった。楽器で表現していた。足の音も使って迫力を出していた」と記述している。

また、抽出生徒Bを含めた三人グループがクラス全体に提示したよさや美しさは「歌っている速度と演奏している楽器により場面の様子や登場人物の心情が表されている」であった。

よさや美しさの共有と再鑑賞を経て、抽出生徒Bの感想は「場面によってテンポが違ったり、舞踊している時は、明るく速いのですが、始めのあやまっている時は、暗く場面に合っているな、と思いました。1人1人が出している音がこんなにも合わさるとは、すごいと思った」と変化した(図10)。

★歌舞伎『勘十郎』の音楽のよさや美しさの特徴をもとにまとめましょう。(15分)
 ・個人で書く(5分) → グループで発表し合う(10分) ・発表もまとめる(7分)

あなたが考える歌舞伎の音楽のよさや美しさ	グループの意見
音に合わせて演技すること。	明けている速度と
場面に合わせて、速く遅くしたり遅くしたりして、それに合わせて三味線などが入っていた。	演奏している楽器により
それに合わせて、三味線などが入っていた。	場面の様子や登場人物の心情が表されている。

★よさや美しさを確かめながら「判官御手を～延年の舞」鑑賞した感想を書きましょう。

場面によってテンポが違ったり、舞踊している時は、明るく速いのですが、始めのあやまっている時は、暗く場面に合っているな、と思いました。1人1人が出している音がこんなにも合わさるとは、すごいと思った。

★歌舞伎音楽の学習を振り返り、授業の感想を書いてください。

日本独自の世界観が表されていて、三味線や笛、太鼓や人の声により、「歌舞伎音楽」が伝わってきたと思います。授業を通して歌舞伎見に行ってみたので、初めて思いました。

図10 抽出生徒Bの批評の変化

(2) 授業後のアンケートの分析

「3時間目の授業で、歌舞伎音楽のよさや美しさについて話し合ってから歌舞伎音楽を聴いたこと」に関する自由記述の内容を分析したところ、「再鑑賞を行うことによって音楽のよさが分かった」と感じている生徒が全体の57%、「よさや美しさが分かりやすくなった」と感じている生徒が全体の34%、「気付くことが多くなってよかった」と感じている生徒が30%であった。

具体的な記述としては「長唄には、言葉で表せないような人物の心情が表れていて、音の高さや長さ、使っている楽器や演奏している人数などで、雰囲気が違うことを感じて、工夫がたくさんあっていいと思った。三味線の演奏の仕方(速くとか、ゆっくりとか)でも変わっていたので、すごいと思った」「ただ聴くよりも、意識して聴くことができるので、考えも深まると思います。話し合ってからでないと、絶対に気付けないことが多かったので、助かりました」といった意見が書かれていた。

(3) 考察

再鑑賞後に抽出生徒Bの感想が変化したのは、共有や話し合いを行い「登場人物の心情が、演奏されている楽器や速度によって表されている」という新たな気づきを基に再鑑賞を行い、実感を持っ

て味わうことができたからである。

また、速度という要素に着目したことで、三味線の独奏が役者の演技に寄り添って演奏していることに気付いたり、多人数による囃子方の合奏が縦横を合わせ、踊りの伴奏をしていることのすばらしさにも気付いたりすることができた。

このことから抽出生徒Bはこれまでの活動を通して習得した知識を踏まえて再鑑賞に取り組み、その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認し、知覚したことと感受したことを結び付けて見いだしたよさや美しさを、より深く味わうことができるようになったと考えられる。

アンケートの結果から、半数以上の生徒が再鑑賞をすることに肯定的な意見を述べていたことが分かった。よさや美しさを自分の言葉でまとめることができなかった生徒や、知覚したことと感受したことが少なかった生徒も、クラス全体で共有することで気付いたよさや美しさを、再鑑賞を通して自分なりに見だし、聴き味わうことができたと考えられる。また、友達が気付いたよさや美しさを、再鑑賞することで確認し、自分の見いだしたよさや美しさと合わせて聴き味わうことができたと考える。

これらのことから、知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動などによって見いだしたよさや美しさを基に、日本の伝統音楽のよさや美しさについて考えながら再鑑賞を行う場面を設定したことは、一人一人が見いだした日本の伝統音楽のよさや美しさを、実感を持って味わうために有効であったと考えられる。

VII 研究のまとめ

1 成果

- 生徒一人一人が知覚したことと感受したことをグループやクラス全体で伝え合い、共有する場面を設定したことによって、生徒一人一人が自分なりに日本の伝統音楽の特徴に気づき、主体的に鑑賞に取り組むことができた。
- 体験的な活動を取り入れながら繰り返し鑑賞を行い、知覚した要素と感受した特質や雰囲気との関わりについて考える場面を設定したことによって、多様な知覚や感受を引き出し、日本の伝統音楽である歌舞伎音楽のよさや美しさを見いだすことができた。
- 知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動などによって見いだしたよさや美しさを基に、日本の伝統音楽のよさや美しさについて自分なりに考えながら再鑑賞を行う場面を設定したことによって、生徒一人一人が見いだした日本の伝統音楽のよさや美しさを、実感を持って味わうことができた。

2 課題

知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動には時間が必要になる。グループやクラス全体への共有の方法や時間設定、体験的な活動の内容や活動時間等を工夫し、鑑賞に繰り返し取り組むための時間や再鑑賞の時間を十分に確保する必要がある。

VIII 提言

日本の伝統音楽の鑑賞の学習指導において、生徒自身が音楽に対する感性を働かせ、主体的に鑑賞に繰り返し取り組み、自分なりの日本の伝統音楽のよさや美しさを見だし、味わうことができるようにするために、知覚したことと感受したことの共有や体験的な活動、再鑑賞等の知覚と感受を結び付ける活動を工夫した授業を実践していくことが有効である。

<参考文献>

- ・大杉 昭英 解説 『中央教育審議会答申 全文と読み解き解説』 明治図書(2017)

- ・天笠 茂 監修 『速達速攻！改訂学習指導要領×中央教育審議会答申【中学校編】』 第一法規(2017)
- ・群馬県教育委員会 『平成29年度学校教育の指針(解説)』 群馬県教育委員会(2017)
- ・国立教育政策研究所 教育課程研究センター 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 音楽)』 教育出版(2011)
- ・峯岸 創 監修・編 『日本の伝統文化を活かした音楽の指導』 暁教育図書(2002)

<担当指導主事>

福島 純子 関 喜史